アンコンシャス・バイアスに気付いていますか？

男女共同参画社会の実現に向けて



男女共同参画社会とは、男女が互いに人権を尊重し、
能力を十分に発揮できる社会のことです。

女性も男性も自らの力を発揮できる社会づくりが求められています。

家庭での小さな声掛けや子供との関わり方が、
子供の学びとなり、価値観や意識の基礎となります。
子供の未来を大きく広げるためにも、是非、この資料を通じてお子さんと
男女共同参画について一緒に考えてみましょう。

文部科学省

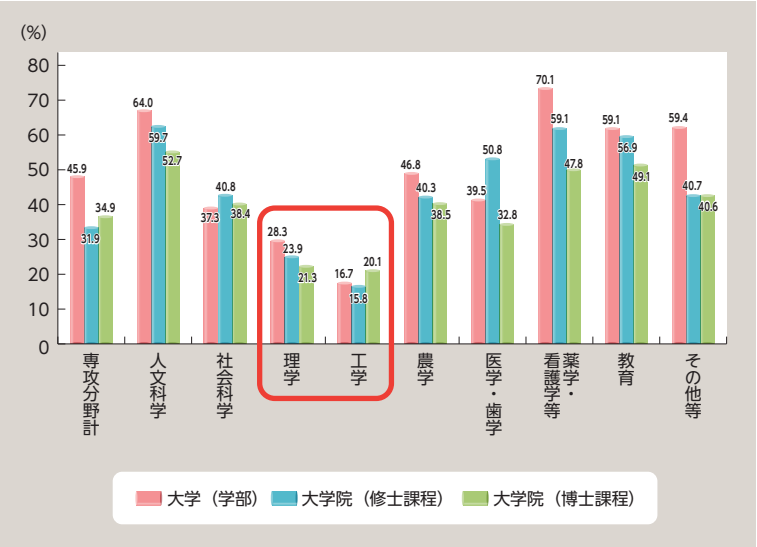
アンコンシャス・バイアスって何？

性別による差別や固定観念が、無意識のうちに家庭や教育の場に残っていることがあります。**「アンコンシャス・バイアス」**や**「固定的な性別役割分担意識」**と呼ばれるものです。

「アンコンシャス・バイアス」とは、**「無意識の思い込み」「自分では意識していないけれども、無意識のうちに抱いている先入観や偏った見方・考え方」**と一般的に言われています。「男の子とはこういうもの」「女の子とはこういうもの」というように、人が気付かないうちに持ってしまっている思い込みもその一つです。子供に「男の子（女の子）なんだから○○しなさい」と言ってしまうことはありませんか？

女子が理工系の進路を選択しない理由

図1 大学（学部）及び大学院（修士課程、博士課程）における女子学生の割合（専攻分野別）



（出所：『男女共同参画白書（令和７年度版）』内閣府男女共同参画局）
https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r04/zentai/html/zuhyo/zuhyo04-01.html

図2 男女別に見た習熟度レベル（レベル１以下・レベル５以上）別の割合（2022年）

数学的リテラシー		レベル１以下	レベル５以上
日本	男子	13.1%	26.6%
	女子	10.9%	19.4%
OECD平均	男子	30.7%	10.5%
	女子	31.6%	6.8%

科学的リテラシー		レベル１以下	レベル５以上
日本	男子	9.2%	20.0%
	女子	6.8%	16.0%
OECD平均	男子	25.5%	8.3%
	女子	23.4%	6.6%

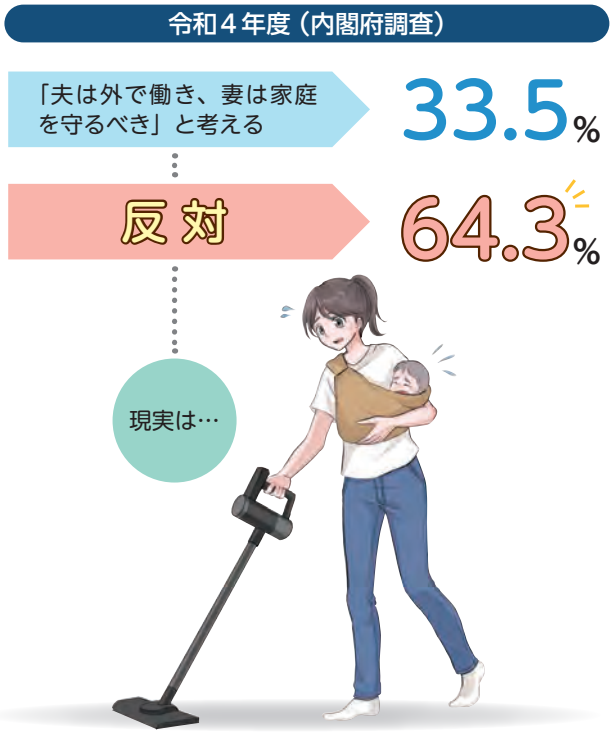
例えば、義務教育終了段階の国際学力調査において、日本は「数学的リテラシー」等については安定的に世界のトップレベルを維持し、また女子の平均スコア等はOECD平均よりも高くなっています図2。

一方で、その後の**大学や大学院での女子学生の割合を見ると、専攻分野によりますが、特に理学や工学分野では低く、**大学や大学院（修士課程）での女子学生の割合が50%を超えているのは、人文科学、薬学・看護学等、教育分野です図1。また研究者に占める女性の割合もOECD諸国の中では群を抜いて低い割合になっています。

「女子は理工系に弱い」といった思い込み（アンコンシャス・バイアス）が、理工系への進路選択を遠ざけている理由の一つと考えられています。

固定的な性別役割分担意識

内閣府が令和４年度に実施した調査では、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」と考える人は33.5％でした。一方で、反対は64.3％にのぼります。しかし現実には、女性が家庭において家事や育児を主に担うことが多く、仕事におけるキャリア形成と家庭での役割の両立を図ることは、まだ容易な状況になっているとは言えません。**固定的な性別役割意識をなくし、男女が共に家事・育児を協力して担ったり、男女が共に責任を分かち合えたりするような環境づくり**が求められています。



コラム

「生命（いのち）の安全教育」



「生命（いのち）の安全教育」は、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、性暴力が及ぼす影響等を正しく理解し、生命を大切にする考えや、自分や相手、一人ひとりを大切にする態度等を身に付けることを目指しています。

今、子供たちへの**「生命（いのち）」の安全教育**が強く求められています。家庭でも、幼少期から自分の心身の大切さをしっかりと確認する機会を設けてみましょう。



教材は文部科学省のウェブサイトからダウンロード可能です

https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html

自分らしく生きる

「女性らしさ」「男性らしさ」といった思い込みは、子供の可能性を狭め、生きづらさにつながることがあります。性別にかかわらず、一人ひとりの個性や能力を認め合い“自分らしく生きる”ことが大切です。

まず、お子さんが好きなこと、興味あることが何かを、自分の力で見つけることができるよう応援しましょう。

家庭でできる工夫

・「男の子だから／女の子だから」という言葉ではなく、行動そのものを認めてほめる（例：「がんばったね」「やさしくできたね」）。
・習い事や遊びは「性別」で決めず、「子供が興味関心のあること」を大切にして選ぶ。



家庭でできること

・子供の夢や興味のあることをよく聞きましょう。
・特性や強みを理解して応援しましょう。
・「やってみたい！」という気持ちを後押ししましょう。
・子供がやりたいことを「がんばれ！」と応援することが子供の自信につながります。
・子供が安心できる家庭環境を作ることが大切です。

まとめ

無意識の思い込みに気付き、性別にとらわれず子供の行動や興味を認めること。そうした一人ひとりの小さな気付きと行動が子供たちの可能性を広げることにつながります。家庭からできる第一歩を、一緒に始めてみませんか？

文部科学省
総合教育政策局　男女共同参画共生社会学習・安全課
〒100-8959　東京都千代田区霞が関 3-2-2　TEL：03-5253-4111　http://www.mext.go.jp/